

昭和三十一年九月二十日招集

第三回定例会(第一日)會議錄

昭和三十一年館山市議会第三回定例会会議録

昭和三十一年九月二十日招集

議長(石井潔君)本日出席議員数三十二名、(欠席)第三回市議会定例会を開会いたします。

議長(石井潔君)本定例会の議案説明のため、田村市長、小出助役、真田収入役代理、穴戸総務課長、唐沢保健課長、吉田商工水産課長、新井建設課長、高木農産統計課長、山本秘書課長、長谷川福祉事務所長、羽山厚生課長、伊藤戸籍課長、黒瀬税務第一課長、山口税務第二課長、宮川診療所書記長、鶴沢庶務課長、庄司学校教育課長、関監査委員以上出席を求めましたので御報告いたします。

議長(石井潔君)ついで会議録署名人、決定を行ないます。

お諮りいたします。

従来例にならまいして議長が指名により決定いたしますことに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)御異議なしと認めます。よって四番議員 田中忠蔵君、二十三番議員 遠山ヨネ子君、以上御両君に決定いたします。

議長(石井潔君)ついて会期を決定を行います。本定例会の会期につきましても、会議規則に定められた議会運営委員会が開くことができませんので、直接議長よりお諮り申し上げます。本定例会の会期を二日と決定いたしますことに御異議ございませんか。なお議案の都合によりまして二日で不足するような場合がございます。ますれば、別にお諮り申し上げたいと存じます。以上のような状態にて二日くらいで御異議ございません。

でしようか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君) 御異議ないものと認めます。よって二日と決定されました。こゝ宣告をもって会議規則第五条第二項より通知に代えますが、御了承願います。
こゝより議案の配布をいたさします。

議長(石井潔君) 議案の配布もければございせんか。
申し上げます。本日の議事はお手許に配布の日程によって上程いたします。そゞろは日程に入ります。

議長(石井潔君) 日程第一報告第十一号、第十二号、第十三号、第十四号

(書記朗読)

監査委員(関武夫君) 報告第十号から説明いたします。
七月の十三日に七月例月検査を執行いたしました。

一般会計につきましても、大体この表によって御了承
いただきたいと思います。税外歳入におきまして一千
六十六万四千円余入っております。

このうち地方交付税の第二回目が八百九十三万七千円
入っております。地方交付税の受け入れの累計は

一千七百八十四万七千円となっております。その他につ

きましても、この表によって御了承いただきます。

公益質屋、国民健康保険、ならびに豊房診療所等

の特別会計につきましても、この表によって御了承願
います。つぎに報告第十二号でございます。

す。八月十三日に四人の市議会議員のお立ち会を
得まして、臨時出納検査を執行いたしました。

その結果につきましても、説明申し上げます。

検査の結果、いずれも正当、妥当に費消されております。

ことを報告いたします。

まず一般会計でございますが、歳入におきまして市税が一千百二十六千円余り、内訳は市民税が約四百万、固定資産税が四百五十万、たばこ消費税が六月分として百三十八万五千五百九十円入っております。

税外収入の三百二十二万円のうち競輪収入として千葉競輪が三十万円入っております。歳入歳出差し引きまして七百三十九万八千八百五十四円の不足でございます。一時借入金が一千万三千九百三十八万八千五百五十九円ありましたが、これは資金運用部から六百万円、恩給組合から六百万円、共済組合から三十九万三千八百八十五円借り入れたものでございます。市税の収入未済額が、

ここの数字では一億二百四十八万八千七百八十五円となっておりますが、納期が到来しないものもございますので

それを差し引いてやますといわゆる滞納額より正味は五千七百六十万円ほどでございます。つぎに特別会計に移りまして公益質屋でございますが、最後より欄外よりまん中よりころう貸付現在高二百十九万四千円ばかり。この内訳は船形質屋が百六十七万四千円余、富崎質屋が五十一万九千円余でございます。

つぎに国民健康保険の歳入におきまして、その他収入に二百一十七万三千円とございます。このうち二百一十万円は国庫からの補助金でございます。豊房の診療所につきまゝては、この表によって御了承いただきます。以上で報告第十二号の説明を終りまして、十三号でございますが、九月十三日に九月の例月検査を執行いたしました。一般会計の歳入におきまして、市税で一千百七十九万余っております。これは市民税が

百万円、固定資産税が八百四十万円、たばこ消費税の
七月分として、百四十九万四千九百十円等が主なるもので
ございます。税外歳入が一千万八千八百七十九円余入って
おりますが、このうち大きなものは競輪収入でございます。
て、まず、競輪収入として松戸の競輪から三百万円、受
け入れております。地方交付税も四百四十一万六千円入
っております。それから寄付金が約百万円入っております
ますが、土木費の船形漁業協同組合から三十万、富
崎港維持費の寄付金が三十万円、東海汽船から
十万円、それから教育費の寄付金が北条小学校の
講堂で三十五万円等でございます。歳出が一千万六
百七十二万九千九百十円、目につきまゝ支出は、北条小学校
の講堂の修築費としての三十五万円支払い、館山さん
橋の復旧費として十四万、富崎港の負担金として

二十万、なお館山港として五十万等が主なるものでござい
まゝた。歳入歳出差し引きまゝで四十万六千六千
五月の赤字でございます。一時借入金九百三十九万
三千八百八十五月の内訳は郵政省から六百万月、恩給
組合から三百万月、共済組合から三十九万三千八百八十
五月でございます。

市税の収入未済額が九千三百五十五万月余り数字にな
つておりますが、納期のきませんものを除きますと、
正味の滞納額は五千百十万月余でございます。
つぎに公益質屋の特別会計でございしますが、貸付現在
高二百七十七万月余でございしますが、この内訳は船形質屋
が百六十六万七千七百月、富崎質屋が五十九万五千三百
五十七月でございます。つぎに国民健康保険の保険
料の収入未済額でございしますが、この月に年間

調定をいたしまして、収入未済額は、二千二百三十二万二千九百二十七円という数字が出ておりますが、納期のこないものを差し引きますと、実体の滞納額は、七百四十万円ほどでございます。豊房診療所につきましても、この表によつて御了承いただけます。以上で例月の検査の報告の説明を終りまして、報告第十四号の公益質屋の監査につきまゝて報告説明を申し上げます。

七月二十三日、二十四日の両日、船形質屋と富崎質屋の三十年度の事業経営に關しまして監査をいたしました。その結果の報告でございますが、一、二、三は、この説明を要しないと思ひます。四、流失処分品売却について、これは、昨年度に流失処分をしまして、まだ品物が売れませんので、倉庫に保管してあつたものでございませう。その貸付元金が五万五千九百五十円に当たります。

のでございます。これを本年度売却したわけでございます。こゝは千葉へ持って行って結^算売りました。そして二万八千四百円得ましたが、元金につきまして差し引き二万七千九百円の損失を生じております。ここに貸付うときに二万七千九百九十円貸付利子五十円とありますが、こゝは千葉へ持って行った品物うち、カップが比較的品がちやうとよかつたけれども、それを十把ひとからげに買わねばつまらないので、そのカップだけを持って帰ってきてこちらで売却したんです。たそうてあります。それが確か、三百円に売れたんだそうて、その元金が二百五十円で、その利息として五十円受入か。こういう当局の説明でございました。

次に五の二十八年度と九年度に貸し出したもので、返済期日がきまして、利入れもせず、元金もち

ろん返さない。そのまま焦げついておるものが、ここに掲げ
ましたように、合計四十万四千六百十円、相当な額によつて
おるのでございます。貸付元金が大體二百一二十万月に
対して四十万月も焦げついておるということは、事業経営の
面からみましても、誠に遺憾なことだと思ひます。

しかしながら、公益という建前から民間質屋のやうに
規則通りにもやれない事情もありますし、そこで入
質者をとくにいろいろ調査して、その実情によつては止
むを得ませんので、流失処分等適当な整理方法
を講ずるゝもやむを得ないだろうと、こう当局に要望
したうでございます。六ヶ月別運営状況、職業別

利用者数、それから財産目録調査の――

それはこの表によつて御了承いただきます。

以上を総合いたしましたして、監査委員として、次の点を指

摘して意見を付したるでございしますが、まず、三十九年度
 におきましては、起債の許可が得られませんが、これは
 貸付金より返還された場合の帳簿の整理の仕方が
 少しまずかつた点があつたらしいんであります。その後
 それも直されておりますし、新年度におきましては、
 ぜひ起債を受け入れて、資金は充足していただきたい
 と思ひます。つぎに三十九年度は、一般会計から繰入
 金が九十万円にも達しております。誠に結構だった
 と思ひます。自己資金を充実するということは、事業
 経営の面で必要欠くべからざることでございすので
 この点につきましては、当局も今後、この方策を持
 続されるよう希望いたします。

三十九年七月に富崎の質屋が開設されたが、これを
 ひとつふやせば当然そこに資金が要るわけでありすが、

この資金の利用につきまゝ考へ方が不十分だと思
います。十分に資金が充足されませんために船形が質
屋で貸し出しておいたものをだんだん減らしまして、富崎
の方へ回わしたような傾向がございます。そこで船形も
つとも利用が高い十二月から二三月頃までの間に貸し出
しの金額が制限とかあるいは一時的に貸し停止とかいうこ
とをしなければならぬほど、資金に疎隔をきえしたう
ございます。

こゝは誠に遺憾でございます。当局はできる限り資
金を充足して市民がいつも必要なときにいつでも十分に
利用できるやうに資金を尽くしたいのでございます。

この質屋の特別会計は決算書をみますと表面的
には歳入歳出差し引いて一万九千九百三十万の黒字を
生じております。こゝは一般会計からの繰り入れ金等

多いためにそうなってくるのでありますが、事業を經營する
 という観点からみますと――

みられますように

四十万円の赤字が出ておる中でございます。現在店を二つ
 持っておりますので、現在、職員船形ス二人、富崎へ一人
 それからもう一人主任格で両方をみておりますが、この人員
 を減らすことは、内部編成の面からみましてもどうかと
 實際に思われます。そこで、経費の節減ということとは
 あまり多くを期待することができないと思ひます。

どうしても売り上げをふやして、貸付高をふやして行
 って、利子収入の効果をはかる方へ持つて行かなければ
 この経営は本当にはうまく行きそうもございせんぞ。
 それにはどうしても資金を豊富にして、貸し出しをいつ
 でも貸せるという体制にもって行くことが肝要だと存
 じます。三十一年度は、予算をみましても、貸付高

が三百万円を見込んで、それを何回か繰直すように予算を組んでございます。まだ、百万近くも貸付高が不足してあるわけでございますので、当局の積極的な善処を要望する次第でございます。以上をもちまゝて貸屋の監査の報告を終わります。報告に関連性がございまして、この機会に報告させていただきたいと思ひますが、前回の市会の際に社会福祉協議会関係のことにつきまして、報告いたしましたのでございしますが、その後警察の調査によりまして、私が報告いたしました数字が若干違つておることが判明いたしましたのでございします。そこで、私どももあり新聞をみまゝで、八月二十三日に三人の事務員の女子子を市役所へ呼ぶまゝて事情を聴取いたしましたのでございます。その結果判明いたしました点につきまゝて報告申し上げます。まず、遺族会につ

いてでございますが、六月五日に私も監査いたしましたとき、不足金は二万四千というところでございまして、ところが警察を調べによりますと、不足金が三万二千七百四十円というところでございます。一万二千七百四十円そこにはふえておるわけでございしますが、この事情は私もはじめ監査いたしましたとき、現金として一万三千百二十五円あったのでございします。ところが、その現金のうち一万二千七百四十円は、実際に遺族会のものでなかったものであります。そうとき、会ったある方が、それを俗にいえば、合せ金であります。そこへ加えて監査が終つたらまた御自分で持ってお帰りになったということだ、そうでございます。

遺族会、不足金は三万二千七百四十円でございます。それから、赤十字会につきまして、私も最初みまいた

ときは、不足金が三万五千六百八十三円でありました。ところが警察の調べによりますと、不足金は六万二千五百八十三円であったということであります。そこに二万六千九百円ふえておるでございます。この理由は、果ては未七人金庫というものが果にできたんでありますが、これへ各地から寄付を集めて出資をしたんだそうであります。そうときり寄付金ばかり七万二千五百円、この土地で集まったのであります。

そううち、果へり金庫へ出資しましたのが、四万五千百円でありまして、差引き二万六千九百円の残金があったはずであります。これがなくなつてしまつておつたという実情だそうでございます。未七人会り不足金は六万二千五百八十三円でございます。さらに社会福祉協議会でございますが、六月二十二日に私も、警察に伺つて帳簿を拝見させていた。たときり不足額

は六十二万四千五百七十九円でありました。ところがその後、敬告寮の調べによりますと、二万九千四百三十八円、なお、不足金が入っております。これは、赤い羽根の共同募金であります。この募金をいたしますと、事務経費として、共同募金会から補助金が入ります。この補助金によって、いろいろ事務費をまかなうてあります。が、二十八年度、九年度、三十年度、この三カ年の事務費、残金が二万九千四百八十三円あったのだ。そうである。ありますが、これが、福祉協議会の帳簿にも受け入れられず、なくなつておつたのでございします。この事情によるものでございします。

それから、老人ホームの關係で、三十万六千六百五十九円という不足金があることがわかりました。これは、老人ホームのほうだということであつたので、私も監査の対象外と

一応考えておたつてありますが、その後いろいろ事情を考慮しますと、こゝは福祉法人館山老人ホームの金ではなかつて、やはり館山市社会福祉協議会、金であるということが判明いたしました。そこで社会福祉協議会関係の不足金の総計は九十六万六千六百七十六円ということになります。こゝはこゝ老人ホーム関係のものは老人ホームを建設いたします。つきまゝで、社会福祉協議会が果て福祉財団法人ホームの方へ注ぎこんだつてございます。そして共同募金関係から配付金、一般の寄付金等によってその借入金返済して行つておるわけでありましたが、その帳じりの残金がまだ三十九万六千六百五十九円だけはいけなはいけな、はすうもが実際にはないんだということとございます。以上をもちまして、前回の監査報告の数字を訂正い

たしたいと思ひますから、よろしく御了承いただきます。
以上で報告を終わります。なお前回の市会るときに保健
課の監査の請求を受けましたが、今会期中、その
結果論を出して報告いたしたいと思ひまゝて目下報
告書の準備中でございます。明日は報告できると
思ひます。その点につきまゝて御了承願ひます。
以上終了します。

議長（石井潔君）報告案件につきまして御質疑等が
ございましたら御発言願ひます。

二十二番（ ）社会福祉協議会より前回の報告
は、六十二万ですが、いまよく聞かえなかつたんですか、
合計しますといくらになりますか。六十五万くらいになるん
ですか。

監査委員（関武夫君）お答えいたします。六十五万四千十七円

でございます。共同募金関係は二万九千四百三十八円
でございます。

・三十一番

（質屋の貸付金と利子問題で伺いま
すが、小学生うつづり方なかで、非常にこの貸付の利子
が高いというつづり方を書いた生徒がおったということをお
聞きました。それで実はいつか伺ってみたいと考えておっ
たのでございます。確かに月三分とか記憶しております
が、この利子はどういう根拠のもとにこのような高い利
子であるか、あるいはこれを下げるようなことはできない
か、この点について伺いたいと思います。）

・厚生課長（羽山房雄君）お答えいたします。公益質屋の利
子は三分というのは公益質屋法で一応決まっております
ますので、当市といたしましては、その規定どおりで現
在のところは改訂する意思はございません。

三十一番

（私のお伺いしたいのは、どういうわけで質屋の利子は、そういうふうの高いか、公益質屋と名がつけば、相当公益性をもった、いわゆる困っている人に対する利子であつてある程度軽減してもいいんじゃないかという考え方もできるんですか。どうしてもこれだけとらなければならぬという根拠を聞きたいわけです。）

厚生課長（羽山房雄君）市灯の私設の質屋の利子が、大体九分だと思つておりますが、それと比較しまして三分は決して高くはないと考えておりますが、この鑑定人の見方によつて自分では三千円の価値があると思つて持つて行つても鑑定人が打がめた場合、千円以下で値打ちしかないという見方をした場合、入質者の意思通りに融資できない場合もあると存じます。その点じゃないかと考えております。利子については決して高いもんじやないかと考えております。

十一番(伊勢仙太郎君)福祉関係の問題であります。横領とか、使ひ込みとか、そういう見解は、敬言察側ではつきりと打ち出しておりますか。その点について敬言察側の見解はどうであるか、お伺いしたいと思います。それから、二点として、つきりした場合、今後、役職員というものは、どういう形で動きがあるか、一新して行くのか、そういう点について、市長さんは見通しとか、見解とかありまいたう、御説明願いたいと思います。さらに、こう補てん金がどうようにして、返済されるか、また返済がよなかつたら、相当社会福祉関係の費用に大きな影響を及ぼすものと思ひますが、そう場合にも市として、どういう措置を講じたいか、こういうものが見解がありまいたう、それも合せてお答え願ひたいと思ひます。

市長(田村利男君)聞きもうしたことがありまいたう御追加願

います。警察関係の見解はつきりわかっておりません。御本人が病気でありますので、おそらく調査ができないんじゃないかと思いますが、こゝろ——という言葉使っていないか悪いか知りませんが、そういう点は、はつきり聞いております。第二の問題につきましては、以前申し上げたかと思いますが、ハラダ協議会長ならびにハラダ老人ホーム専務理事、二つが辞表を当座市長のところへ出すのが本当でないかとも思いますが、市長室へ持ってみえまいたうで、まだサナダ君の意思もはつきりしていないので、会長がやめてしまったら困るんじゃないかというので、辞表は押見しましたが、市長としては、これを預かりすることはない。もう少し経ってから善処したらどうでしょうというわけで、いったんお返ししたのが日は忘れましたが、あの事件が起ったしばらくしてからでございします。

しかしその後は、その問題につきましては、辞表は提出して
いせんが、二十日くらい前だったか、ヨシダシウロウさんとおみ
えになりまして、ちよつとその前に監査委員さんが報告を
落したかも知れせんが二十万円の現金で弁償金を福祉
協議会の方へ鳴田君から二十万円現金を返さうています。
そのことに關しまして、あとまだ、六十何万という金を補て
んすべきわけですが、これをある官庁の独身寮に売却
するはずになつておるが、所長が転任したばかりであつた所
長がすぐやるということだったんで、しばらく待つてくれとい
たんですが、今度所長がきてみると、その家は買ふ気はな
くて、むしろ、ほかり現在まであつた所長官舎ならびに所
員が官舎を修理する方にせよが行つてしまつたので、新
しく独身寮を建てる金がない。従つてこのサダ君の住定の
問題は、その官庁に限つては、話がおしまひになつたと申絶し

たというわけで、おそらくこゝは長期に返済がかかるんじゃないかと私〆考えでは二三年かかるんじゃないかと思うので、その間責任上、二三年かかっても私たちが手で返済してから責任を果たしてから、辞表を出したいというのを座談的に二十日ほど前に申されたことがあります。人事問題については以上でございます。

十一番(伊勢仙え助君) 一応敬書察う見解がまだ、不明確であるが、相当期間も経過しておりますので、こゝが起訴になるか、不起訴になるかということは大体見通しというものがついておるんじゃないかと思ひますが、ただ我々が考えますのに、こゝがひとつの犯罪として、はっきりした場合には、市長もその責任の一半であるというふうに考えて、場合によれば、金を出すから、それで勘忍してくれという、さうな裏面から、そういう働きをして、なんとかこゝを俗

にいう――

――そして人事の問題についても

そういうような考え方があるんじゃないかというふうには非常に
疑惑を持たれるわけなんです。その点について、警察など
見解のはっきりする、――ないとは別として、監査面からみて
既に九十六万という大金がなくなっているという事実から
推して、返済金の問題をはっきりさせるという、そういう人間
が住む家をなくしてしまおうということだと思いますが、
なるべく早く確実に返済する方法を本人となんらかの
きり――に契約のようなものをもって十分市が――

困らないような対策を樹ててもうたうんじゃないかと思
います。二、三年経って金を返すまで、自分はやめないん
だというようなサnakとも社会教育の最高責任者であ
る人たちがそういうような言葉を吐いてゐるのを聞きた
して、我々は社会福祉事業の観点から果たして、こ

考えるもとに、選挙まで行くのではないかというふうに非常に疑惑を持ったものであります。例えばみせ金を遺族会や場合に一万七千余円も出たのと、そういうような気が持が福祉関係の幹部の間にも多分にあるんじゃないか。

その結果、こういうふうな問題を起こしたんじゃないかと思われゆるんでありますが、市長は人事の刷新について一層はつきりとした態度を決めて、できれば急速に人事を改革して、市民の期待するような新しい福祉協議会というものをつくってもらいたいということを私は要望しまして質問を打ち切ります。

市長（田村利男君）伊勢議員の御発言誠にもつともと存じますが、なんにいたしましても、ある団体は、市直接の団体ではありませんが、あくまで財団法人、社会福祉協議会、もうひとつ、老人ホームという別な、市から離れた団体であり

ますので、市長の考えでお前たち、やめろというようなことは
できませんが、本日市会が皆さまより御発言がなければ、また
改めて真田さん、吉田さんたちと懇談してみる機会を持
ちたいと考えております。

・三番

（関連して監査委員の方より御答弁を
お聞きしますが、先ほどより御報告で一万七千いくら
みせ金をしたというふうなことがいわれておりますが、こ
れはどういう関係が人かしたか、その点を明らかにされるかど
うか、もし差し支えなかったら承っておきたい。さらにこ
ういったことがその後敬告案の調べによって額が違ふという
現実の問題が出てきて調査の結果わかった。しからは
今後の監査の問題に関連してきますが、いろいろな問
題を監査するにつきましてもこういったごまかし、いわゆる
一時を糊塗してやるというようなことが起きるような場合

に監査の遂行上、大きな支障をきたすんじゃないかとい
うことが考えられます。こうしてたでたらめに一時をごまか
すというふうなことをして、監査を受けた場合にそれ
に対してなんらかの制裁規定といましようか。法規になつと
見当りませんが、そういったことがあるかどうか。またこんご
うしたことに對する監査委員の方うそうときだけ、ごまか
せばいいんだと。あとはどうなつても構わないんだということ
を言われた場合には、今後、監査の上、支障をきたす
んじゃないかと思ひますが、この点につきまゝて、監査委員の
方うお考えをお聞きたいと思ひます。

監査委員(関武夫君) 遺族会が監査を最初いたしました
のは六月五日でございましたが、そのとき遺族会関係の
方で立会われた方は、嶋田現会長とヤマネ前会長さんで
ございました。この二人の方が、立会ったのでございます。

そううち一人がいより一万二千七百四円を一時立替えられたそう
でございいますが、嶋田さんに私事情を伺いましたら、嶋田
氏ではないようでございます。それから、そういった場合、こ
まかしくことをして、監査を受ける。これは実問題といまし
ますと、私もそうだったことをさめた場合にはわからないだろ
うと思うんです。従いまして、これはあとでわかった場合は、そ
ういうことをおやりになった方が社会に非難を受けるという
ことで十分報いらるだろうと思います。法規的にそうい
った場合、判裁ができるかどうかということにつきましては、
現在、うとこうでございと思います。

それと、さっき、市長さんが言われた福祉協議会より二十万
補てん金があると、これは当然報告いたすのをうっかり
落しました。が、七月十六日に御親類の方より御心配で二十
万円を福祉協議会へ返済されたそうでございます。

三番

（そうしたごまかしで一時を糊塗すると

いうことにつきましては、なんの制裁規定もなく、むしろ

今後わかった場合には、社会的に非難されるということですが、

仮に遺族会の問題でなく、こんご館山市の保険運営上補

助金やなんかをとっている各種団体に対しても、市と

しては、監査をするという権限を持っておると思ひますが、

こうしたことをこんご監査をやるにつきましては、ただ、そうとき

ごまかせばいいんだというふうなことで、こんごもごまかせ

ては、たまたまない、かように考えまして、十分この点、御考慮

願ひまして、こんご、そうした各種団体、市はもちろんのこと

その他、関係の監査につきましても、十分に御留意の上、ご

まかせないよう方法をお願いいたしまして、嚴重なる

監査、ほどを切に願ひし、質問を打ち切ります。

二十二番

（ただいま十一番、三番議員から質問が

あつて、市長と監査委員の答弁があつたんですが、どうも了解しかねる点が、ほとんど了解しかねるんですが、というのは今後に対する人事ということに對して、市長としては、おおよばない、また会長が責任をとつて辞表を出してきた、それから、全部穴を埋めるまで、二年、三年かかるので、それまで職にとまつてゐる。表面をみると責任があるやうであつて決して裏は逆である。監査の結果、非常に――

――結論としては結局、おわわわ手が及ばないんだと、仕方がないんだというやうなことで行つてしまふ。こゝに對しては、問題が福祉協議会であり、未亡人会、遺族会、老人ホーム例え手が届かない老人ホームにしても、市長としてそれならどういうふうにやつて行かなきゃいけないかという、はつきりしたものがなくちゃいけないと思ふんです。

それによつて、会長とよくそのことを話してこの問題を処

理してゆく、穴埋めに対しては、文書にして、はっきりと、こゝは補てんしてもらう。こゝのようなことをやけり。我々議員として教えてもらわなまゝ了解できない。現在会長がやっておると思うけれども、その衝に当たっておった直接の責任者は事務局長ですが、こゝはやめたと聞いておるんだが、実際に前事務局長に代るべき人はいつたいとなたがやっておるやうか、教えていただきたい。

。市長（田村利男君）事務局長の後任はないと思います。ただし、以前から事務局長の下で名前が主事といひますか、やっておった小林シウゾウさんが以前から事務を真田さん監督のもとに事務だけをやっているというふう聞いております。

。二十三番（

議長（石井潔君）他に御質疑ございませんか。

市長（田村利男君）松本議員、遠山議員あるいは三番さん（一番さん）の御意見が大体趣旨は、同趣旨のように聞かれますので、近くホームなうぶに協議会や幹部の方々とお会いしまして、市民ならびに議会はこういう気持ちであるからということをお伝えしまして善処したいと思っております。

議長（石井潔君）他に御質疑ございませんが、御質疑がないければ日程第二に移ります。日程第二議案第十五号を上程いたします。

（書記朗読）

議長（石井潔君）本件に関しましては、六月の議会におきまして、専決処分を認めておりますので、御了承いただけるものと思っております。よって日程第三（議長十一番）と呼ぶ者あり。

十一番(伊勢仙之助君) この問題について専決処分そのものには異議はありません。しかしながら私は――

現場というものを一応みて参りまいりますが、あのときに一応百万円というものは寄付されて、その範囲内でやるというふうにはつきりと市長は申されたてあります。が、実際工事の現場に行ってみますと相当やっています。百万円で不足の分は修繕費でもってこれをやるというふうな恰好でなされておるんじゃないかと思ひますが、^各学校の修繕費というものが明確になつておるかどうかという点について私は教育委員会に質問したいと思ひます。

現在盛つてあるところの修繕費がどの学校はどういうふうにするんだというふうに明確になつておるかどうかならないでただ北条小学校――

いつも工事中――

修繕費というふう

な形で――

方法に今後もって行かいる
うかどうか、その点について教育委員会より御答弁を
願いたいと思います。

・教務庶務課長（鵜沢貴寛君）お答え申し上げます。学校に
おきます修繕費、支出内容につきましても、委員会にお
きまして大体案ができております。しかし、北条小学
校の講堂の修繕につきましても、この修繕費からは、一銭も
おしておりません。

・十一番（伊勢仙之助君）そうしますと、仮に百万円でよいのかは――
こういうふうな考え方によって解決した
いというふうに考えるのであります。その点を――

・教務庶務課長（鵜沢貴寛君）現在やっております。北条小学校
の講堂につきましても、お説のとおり、百万円ではできません。

それでその不足分は講堂修繕期成会の方にお話いたしまし、それからある程度の金を出してもらってあります。が、請負い設計におきまして、こわたとところが見積りもやがかりまして、その分をどうしてもやらなければいけない状態にいたっております。期成会の方から出していただいている額は、一万円でございます。そうほかにも申し上げました見通りの見落しがありまして、追加工事として今回予算に計上したわけであり、ります。が、それは北条小学校に配布してあります。備品費の方から更正してやりたいというふうに考えております。

十一番(伊勢仙之助君)問題は備品費を講堂修繕に充てるといふ大きな問題にやります。が、こういう点に、つて、やはり学校修繕に回すということは、こんど学校運営上

に非常に支障があるんじゃないかと考えます。もつて、やはり
備品費は備品費の性質に使われるべきじゃないかという
ふうに考えておりました。どうしても北条小学校のような学
校だけではなくて

多く使われる
というような問題に備品費を充当するというようなことに
ついては、こんなんらかう方法によって備品費だけを補充
してやるという前提のもとに備品費を流用するというお
考えですか。その点質問いたします。

教委庶務課長(鵜沢貴寛君) お説のように考えております。
議長(石井潔君) 他に御質疑ございませんか。お諮りいたします。
本専決処分承認に対しまして御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君) ついで日程第三議案第六十九号を上程いたし
ます。

(書記朗読)

() 今回自治法改正に伴いまして、現在
ありました館山市の議会規則のうちでも再三訂正しなけ
ればならないという点がありまして一昨十八日行われま
した全員協議会におきまして予めこの点御協議願いま
しまして御了承願ったのであります。これにつきまして
今回も自治法改正に伴いまして議員定数の場合に
一定数の議員を選出による提案が必要だ、かような
観点から議長の指名に基きまして五名が選出議員に
なつたのであります。その一人として代理いたしまして、請
願を御説明申し上げる次第であります。これは一昨
十八日より全員協議会におきまして皆さまより慎重なる御

審議をいただき予めこの点御了承願っておりますので、
あえて事々しく御説明申し上げるまでには、右のような
状況でありますので、御審議の上、ひとつ御賛成を願
いますようお願い申し上げます。一応提案いたしたいと
思います。

議長（石井潔君）本案に対しまして御質疑ございますか。

十一番（伊勢仙之助君）この議案提出うなかに議長さんう名前
が出てゐるんですが、これは一応差し支えないか。この点、
事務局の見解をお願いいたします。

事務局長（高梨清一君）失礼して、この場から申し上げます。
議長も議員う一員でありますので、議員としてう資
格において――

十一番（伊勢仙之助君）――

発案者が議長であつてその

事件を審議するに議長が

いいか

どうかとこういう私に配です。だから技術的にこういう
ことができなかったと一たらはかり人から

。事務局長（高梨清一君）発言でなくて発案についてとくにいまま
で慣例においてもこう

申し上げますと十一番さんは発言する場合には議長席
についておちやいけないうところから御質問じゃない
かと思えます。

。十一番（伊勢仙之助君）議長自身が発案者になった。その議
案を審議するに発案者である御当人が議長席に
おてその審議の採決をしていいかどうか。その質問です。

決めるこ

とは

まずいんで発案しても発言しなければ

議長席におつて採決によつてやるんだという考え方で自信が持てるかどうか、その見解をお聞きたいんです。

事務局長(高梨清一君) 今までの公共団体で議会の運営とい

たしましては、その点間違ひはないと存じております。

議長(石井潔君) なお議長から申し上げます。この発案者の件について

までを

議長席(一番から五番議長も発案者になる

ことは考えまいたけれども、一番席から五番席まで、議員のお名前を拝借したようだが、次第ですから、その点御了承願いたいと思います。他に御質疑ごございますか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君) 御異議なしと認めます。よつて本案は決定いたしました。

議長(石井潔君) ついで日程第四議案第五十六号を上程いた

します。

(書記朗読)

(議案第五十六号について申し上げます。
先ほどの決定いたしました議案第六十九号と同じく今回の
地方自治法の改正に伴いまして従来昭和二十四年六月
三日

示さしめて館山市議会委員会

条例が今回改正さしめられたのを今回地方自治法の改正に
伴いまして改訂する必要に迫られしもので、これも前議案
と同しく一昨十八日全員協議会におきまして皆さまり慎重
なる御審議をいただきまして予め御了承を得ている案
件であります。どうぞ御審議うほどをお願いし、まして
御賛成、ほどをお願い申し上げる次第であります。
議長(石井潔君) 本案に対して御質疑ございますか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長（石井潔君）御異議ないものと認めます。よって本案は決定いたしました。

議長（石井潔君）続いて日程第五 常任委員会委員選任についてを上程いたします。前日、全日程が決定されました。委員会の条例第四條を定めるところにより、本市議会常任委員会委員の選任につきまゝてはお手許に配付の選任表のとおり選任いたしたいと思ひますが、こゝに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議ないものと認めます。よって以上の通り決定いたしました。

議長（石井潔君）しばらく休憩いたします。

議長（石井潔君）休憩前に引き続きまして会議を開きます。

議長（石井潔君）申し上げます。日程第六につきまゝでは、市長より議案の送付がございせんが、日程を削除いたしまして日程第七議案五十号を上程いたします。

（書記朗読）

（従来定例会につきまゝでは、年四回開く、こういうことになっておたが、ございしますが、今回自治法の百二条の二が改正によりまゝ、毎年、四回以内において、条例でその回数を定めるというふうになりまして、本市におきましては、四回が適當と考えまして、本案を提案した次第でございします。

議長（石井潔君）御質疑ございせんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議ないものと認めます。よって議案第五十号は決定いたしました。

議長（石井深君）（続いて日程第八議案第五十一号を上程いたします。）

（書記朗読）

（議案第五十一号について御説明申し上げます。）
今回改正しようとするものは、第二条中「二項」を削る關係でございします。こゝ二項には従来「自転車」と「荷車」と——と畜犬について「鑑札」を交付したときに手数料を徴収する。こういう規定があつたのでございします。

これは「鑑札」交付に属するものでございまして、手数料として扱うことは、妥当ではないということになりまゐつたので、今回こゝ二項を削除いたしまして、第三項、四項を順次繰り上げようとするものでございします。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議ございませんか。御異議ないものと認めます。よって本案は決定いたします。

議長（石井潔君）続いて日程第九議案第五十二号を上程いたします。

（書記朗読）

（議案五十二号について御説明申し上げます。今回自治法を改正によりまして、監査委員が監査を執行上、必要があることを認めましたときは、関係人より出頭を求めることができるようになった。そこで、これは従来議会および委員会等におきましても、こういう場合には、費用弁償を支給することになっておた。でございまして、その意味によりまして、今回第百九十九条第七項の規定により、出頭した関係人にこの監査委員に――に――出頭を命ぜられたものに費用弁償を支給するという）

規定を設けようとするものでございます。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君) 御異議ないものと認めます。よって本案を決定いたします。

議長(石井潔君) つづいて日程第十議案第五十三号を上程いたします。

(書記朗読)

(議案第五十三号について御説明を申し上げます。旧西岬地区には従来東と西の駐在所がございまして昭和二十九年七月一日の公安委員会規則によりまして派出所及び駐在所の名称及び受持区域に關する規則によりますと現在西岬地区では西岬巡查駐在所だけでございまして全地域を受け持つ。そして伊予の西の駐在所は廃止されておるわけでございます。

こゝ敷地は伊戸ウイチカワイノスケ氏の所有でございます。敷地として宅地が三十七坪ございます。こゝを借りておるうでございします。

すでに使用目的を失った駐在所は現在腐爛朽がはなはだいゝであつて付近の治安上からいつても不安であるしこゝを農地に転用して収益をあげたいという目的で返還をしてもらいたいという請求が出ておるうでございまして、現場を調査いたしますとまったく荒廢に歸しておるうでございします。

こゝを他に転用する場合には大修繕を加えなければいけないという状況でございします。そこで敬告察にも照会いたしまして、すでに規定によりまして、駐在所が一カ所になつておつて、将来復活あるいは使用う望みもないので、敬告察といたしましてはなんらうがたい。

こういう回答でございまして、この際、これを取替へて、
して処分しようとするものでございます。

() いま説明を聞きましてよくわかり
ました。ただ、取替へないでなんとかこれを活用するとか、
あるいは、これをどうも払い下げというような希望はないん
ですか。

() 一応、その辺も考えまいたが、これは相当腐
朽しておりますので、売買した場合に、わずかう値段段である。
それから、また場合によつては、これを取替へて、自動車
の専車庫なり、あるいは、学校、物置なり、そういう方面
に転用ができるんじゃないかと、現在、その方面、処分につい
て考えております。

() ただ、このわした場合には、それからなくとも、
建つてても腐朽がはなはだしいんで、価値がない、これを

ばもつと価値がなくなつてそれこそ二足三文ということにな
りまして結局、こゝろまで、

そのときにおいて希望があるならば希望に添うように――

この処分についてはいいと思ひ
ますが、この点ちつとお考え願ひたいと思ひます。いかが
ですか。

()

議長(石井潔君)他に御質疑ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)御異議ないものと認めます。よつて本
案は決定いたしました。

議長(石井潔君)続いて日程第十二議案第五十四号を上程
いたします。

(書記朗読)

(議案第五十四号について御説明申し上げ
ます。ただいま工事中であります都市計画街路事業
でございますが、こゝに使用いたしますブロック購入でござ
います。こゝ件につきまゝて指名競争入札を八月

十五日に

招きまして指名

いたしまして競争入札をいたしたのであります。が、予定
価格に達しないため最低入札者東海汽船と随意契
約を結んでブロックを購入したいと思ふ次第でございます。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君) 御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君) 御異議ないものと認めます。よって本案は決
定いたしました。

議長(石井潔君) 続いて日程第十二、議案第五十五号を上程いたします。

(書記朗読)

議長(石井潔君) 申し上げます。審議に入ります。前に議案中小谷議員が出ておりますので、小谷議員の退席をお願いいたします。

保険課長(唐沢貞太郎君) 議案第五十五号について御説明申し上げます。さる七月十六日、国民健康保険運営協議会につきまいて、結果、つぎのような方々に任期

一年の委員が決定いたしておりますが、それを国民健康保険運営協議会の付則第二項の規定によりまして、その委員は、市町村長が市町村の議会より議決を経て定めるというふうに規定されておりますので、ここに本案を提案した次でございします。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）最初小谷議員を異議あるかどうか。御決定を願いたいと思いますが、御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。小谷氏が決定いたしました。

議長（石井潔君）お諮りいたします。小谷議員を除いたあと、五人の方について御異議ございせんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議ないものと認めます。よって本案は原案通り決定いたしました。

議長（石井潔君）続いて日程第十三議案第五十七号を上程いたします。

（書記朗読）

(議案第五十七号について御説明申し上げる。こゝは別紙図面で御覧になりますと、北条海岸より市営住宅の敷地に

ございまして、更測いたしますと、九十一坪二匁ございまして、他に目下うところ利用し、道も考えらるまいとございまして、こゝを競争入札にして処分をしたいということに考えたのでございします。

現場説明には四名参加いたしました。一回その当日に入札をいたしました。ございしますが、第一回目には予定価格に達しませんで、さらに第二回目も入札いたしましたところ、

氏が二十二万八千円で予定価格よりも超過いたしました。こゝも、うをもちて、落札者といまして、売却をしたいと考えるのでございします。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長（石井潔君）御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議ないものと認めます。よって本案は原案どおり決定いたしました。

議長（石井潔君）続いて日程第十四議案第五十八号を上程いたします。

（書記朗読）

（議案第五十八号について御説明申し上げます。今回自治法を改正によりまして、館山市に現在ございます監査委員条例を改正したいと考えるも、ございます。第三条で監査委員が監査を請求もしくは監査を申し出がある場合、監査をするということになった。監査委員は十日以内に監査をしなくてはならないと期日を規定いたしたものでございします。）

第四條では、議会から請願や送付を受けた場合には、二十日以内に措置しなければならぬと期市をきめたいとございます。それから第五條でございますが、

執行に関する監査でござ

います。これは、毎会計年度一回以上行なうというのでございまして、その期日につきましては、監査委員が適当に定めるようにしたいと考えるのでございます。それから第六條の二項でございますが、従前は臨時出納検査を行ないます。場合によっては、立会人に対して通知をしたのでございますが、これは、今回期日前七日までに市長と立会人に通知をしなければいけないというふうにいたしたものでございます。これは、

大体、市

会、招集期日と同一にいたしまして、いろいろ議員の方々にも都合がございまして、なお市長の方にも――

関係もございますので、大体七日以内くらいに通知をしていただきたいと考えまして入れたのでございます。

第七条でございますが一、これは決算や証書類を審査する場合の期日を設置でございます。収入役の方は――

――検査いたしましたして三月以内に市長に決

算する――

――をするようになるのでござ

いますが一、この場合、監査委員が審査するという場合

期日――

――当市におきまし

ては、大体一カ月以内におきまして審査をして意見ををつけて、市長に回付したい。このように考えますのでござ

います。

第八条は収入役が市金庫を検査する場合、収入役だけでなく、監査委員にも公正な立場から立ち会っていただきたいという考えで規定いたしましたものでございます。

それから付則の第三項でございますが、これは自治法の
 基く規定でございます。現在
 この条例の施行の際、監査委員である者の任期の
 起算につきましても、なお従前の任期によるという
 規定を設けております。

議長（石井潔君）御質疑ございませんか。

（異議なしと呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議ないものと認めます。よって本案は
 原案通り決定いたしました。

議長（石井潔君）続いて日程第十五議案第五十九号を上
 程いたします。

（書記朗読）

（議案第五十九号につきまして御説
 明申し上げます。本議案は自治法の改正に伴いまし

て、所要の措置を講じたのでございます。第三条中「但書、云々」という意味につきまゝでは、従来——といふふうになつておりましたものを第四条におきまゝで、特殊勤務手当のうち「旅費」としたものでございします。内容につきまゝでは同じでございします。

第二条につきまゝでは従来看護婦の手術手当が看護婦一人について百円としてございしたものを他項におきまゝして、看護婦または見習看護婦にあつては百円とつぎに第五条の従来は婦長の管理職手当が五百円出たのでございしますが、第五条を削除しまして、第四条の口に婦長にあつては二百円手術手当を支給するというふうに変更を行つたのでございします。

議長(石井潔君) 御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長（石井潔君）御異議ないものと認めます。よって本案は原案通り決定いたしました。

議長（石井潔君）続いて日程第十六議案第六十号を上程いたします。

（書記朗読）

（議案第六十号について御説明いたします。本条例は、前の条例と内容においては同じでございます。――

――として、教育長や勤務条件、そういうようなものは、やはり市の職員と別口条例で定めるということになっております。よって本案を提案したわけでございます。

議長（石井潔君）御異議ございませんか。

（「異議なしと呼ぶ者あり」）

議長（石井潔君）御異議ないものと認めます。よって本案は原

案通り決定いたしました。

議長（石井潔君）続いて日程第十七議案第六十一号を上程いたします。

（書記朗読）

（議案第六十一号について御説明いたします。）
第一条、第二条は説明を略します。第三条に分館の設置を決めたのでございますが、今までは分館設置規則というもので設置しておたのでございますが、これをこんど条例に入れたわけでございます。第五条公民館の役職員を規定いたしましたので、これによる報酬を列表に定めたわけでございます。それから、公民館主事は、現在松本議社会教育課長がなっておりますので、これは、市職員と同じような勤務をここにうけたわけでございます。それから、公民館運営審議会委員は社会教育法におきまして報酬を出せる

ということになっておりますが、その費用弁償額を
ここにうたいました。

議長（石井潔君）本案に対して御質疑等ございませぬか。
十一番（伊勢仙之助君）報酬でございしますが、これは今までの
ものと変わっていませんかどうか。変わってはいかばどういふ
うに変わっていますか。

（現在予算に計上してありますものを
ここにいれました。

議長（石井潔君）お諮りいたします。本案に対して御異
議ございませぬか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議ないものと認めます。よって本案は
原案通り決定いたしました。

議長（石井潔君）つづいて日程第十八 議案第六十二号を

上程いたします。

(書記朗読)

(議案第六十二号について御説明申し上げます。館山市図書館条例は、いままで規定してございまして、たが、地方自治法が改正によりまして、教育機関の設置は条例で定めるということになっております。で、今回制定したわけでございまして、第三条に職員の内容を規定してございまして、現在館山市の職員につきましても、この定数条例に入っておる職員はございまして、第六条の図書館協議会は現在社会教育委員のうちの方が兼任されております。あとう説明は略します。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

十一番(伊勢仙之助君)第六条の委員でありますか、

これはいままでおつておる委員がそのまま新たに教育委員会に任命するという解でいままでも継続的にまた委員として――新たに教育委員会が委員を任命するかどうかという行き方によりますか。その点御説明願います。

() 今までも教育委員会が任命しておつたのでございしますが、現在が今まで行くつもりでございします。
十一番(伊勢仙之助君) どういう人が委員に選ばれておりますか。わかりませんが、お差し支えなかったら、委員の氏名を教え願いたいと思います。

() いまちょっとわかりかねますが、あとで調べて御報告いたします。

議長(石井潔君) 他に御質疑ございせんか。
十一番(伊勢仙之助君) 現在の定数ですが、――

() 現在、図書館職員として、果、分館の佐藤先生と臨時職員を一人、二名で運営しております。

十一番(伊勢仙之助君) そうしますと果、分館の佐藤氏は、こう定数には入らないという考え方でよろしいんですか。

() そうでございします。

議長(石井潔君) 他に御質疑ございせんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君) それでは十一番議員の保留された面がありますので、それは後刻報告申し上げるということにいたします。――て本案を決定することに御異議ございせんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君) 御異議なしと認めます。――よって本案は決

定いたしました。

議長（石井深君）続いて日程第十九議案第六十三号を上程いたします。

（書記朗読）

（御説明いたします。）社会教育委員にも社会教育法におきまして報酬を出せないことになりました。おりますが、公民館運営審議会委員と同様にここに費用弁償額を規定したわけでございます。

十一番（伊勢仙之助君）この費用弁償は、従来までどうも変わらないうちと思ひますが、従来委員の数は、こんど――

運営して行くかどうか委員の任命については、どういふ方法でなされて行くか。

（委員の定数につきまゝでは、前には二十名でござい、ましたが、本年度は五名ほど減員してござ

います。なお、将来も減員につきましては、研究を要する
と思います。いまのところ減員の予定はないと思います。
それから、選任の方法は、各地区、職域、そういうふうなものから
推薦母体を選びまして、やっております。

二十三番

（ ） 今までは年手当として出ておったんで
ございいますが、それが出せませんので、こんど会議に出席したた
びに費用弁償を出したいというものでございします。

二十三番

（ ） 毎月一回ということには決っております。

二十八番（鳴賀社作君） 今委員会が職務のために旅行することが

あるんですが、どういふ場合にあるか、それをちつとお聞かせ願
いたい。

○ () 教育委員、あるいは公民館運営審議
会委員は視察のために出張する場合がございます。社会
教育関係の機関視察という場合は場合がございます。
○ 二十八番(鳴貴杜作君) その視察を決めるときは、どうや
てお決
ま
り
な
ら
ん
で
す
か。

○ () やはり教育委員会や会議におきま
して決めるようになっております。

○ 十一番(伊勢仙之助君) それに関連しまして、この社会教育委
員会や性格というものが我々ちつとふに落ちない点があ
るんですが、教育予算で、社会教育に関するものは、社会
教育委員の決定されたものに従って、予算が使用されて
いるように見受けるんですが、この点は委員会で決定

—たものがかならずしもそのとおり、実施をしないという
場合によつては大きな——の予算を組む、そういう場合に
これはまずい、ときには取止めさせるといふような方法、その他、
経費の使用方について問題があるんですが、昨年の例
によりまして、実は文化祭の問題であります。我々が議
会で組んだものを社教が委員会において、こゝをほかの方
面に使うといふような問題が出て文化祭の費用がたか
くなる。そういうような問題が出てくるわけなんです。委
員会の性格、あるいはどこまで権限を持って
おるか、その点、予算上、執行について委員会が決定
といふものが、どういう拘束力を持つか、その辺の見解
をお願いします。と思います。

() 現在、社会教育委員が社会教育関
係の——を行う場合には、社会教育委員会

に諮りまして決定している関係でそういうような事態へ
が起ってくる場合があるわけですが、昨年の文化祭より
予算執行につきましても、経費節約というような面
もありまして、あつても、社会教育委員会に諮りま
して、あつたような予算を執行したわけでございます。

市長（田村利男君） 鳴賀議員と伊勢議員の質問の内容
があるいは私が答えた方がいんじゃないかと思つて、
私が知つてゐる範囲をお答えしますが、社会教育委員は
いままで市金では旅行しておりません。二百円ぐら
いづつ月極めで月掛けで貯金したもので有志が旅行
してゐるやうに聞いております。従つてこんごもとくに

あそこに参加したいからという社会教育委員会だけの決
定で市金出張旅費を規定されたから勝手に勝手にもらつて
行くということはない。従来通りにやるとすれば、ないと思ひ

ますが、私、知ってる範囲をお答えいたします。

十一番(伊勢仙之助君) その問題について、市長さんは、委員会のこととはあまりよく知らないんじゃないかと思ひますが、

——それが果たして、どういふ予算で——

私もよく知りませんが、あるいは、

思われる

フシも過去に見受けられたんですが、おそらく、どういふ問題で、鳴貫議員から質問が出たと思ひます。が、委員会、出張あるいは、

。市長(田村利男君) おそらく今まで、教育委員会というひとつの域の中で行われたことであります。が、こんごは、館山市長のもとに行われますので、明朗になると思ひますから、……

十一番(伊勢仙之助君) さらに、お尋ねしておかなければならぬんですが、私はなぜ、一つこく、いかと、議会で決定された予算を、委員会、で修正されて、修正といふ、おかしいんですが、例え

ば市会が予算では大まかなことしかできません。それを細かい点を科目までいろいろなされるわけなんです。が、我々が決めたことは間違っていたというふうに解されるような場合があるんですが、こんごそういうこともなされるかどうか、そういう点については十分市長さんも議会が決定されたものに對して尊重していただきたいというのが私の質問の要旨です。

市長（田村利男君）こんごは一手に市長のもとに行われますと存じますので十分気をつけて運営したいと思ひます。

議長（石井潔君）他に御質疑ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）本案を決定いたしますことに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長(石井潔君) 御異議ないものと認めます。よって本案は原案通り決定いたしました。

議長(石井潔君) しばらく休憩をいたしたいと存じますが、その前に御報告申し上げる件がございます。先ほど各常任委員会より委員長ならびに副委員長より決定がありまして、この際御報告申し上げます。総務委員会委員長 高橋文治君、副委員長

南会に先立ちまして、ちつと御報告申し上げます。先ほど議会運営協議会委員が決定されたんでございますが、その委員長に松本藤太郎君をお願いすることにします。副委員長に安西政治議員が選任されました。御報告申し上げます。

議長(石井潔君) 休憩前に引き続きまして、会議を開きます。

議長（石井潔君）日程に入ります。前に十一番議員の御質問が保留になっておりまして、報告をさせます。

（十一番議員さんに先ほど私が申し上げたことはちっと違っておりまして、訂正いたします。今まで図書館運営協議会の仕事をやっておりますのは、社会教育委員会がなかに図書館部というのがありまして、それが代つてやっておたわけでございますが、今度新しくこの条例によりまして、図書館運営審議会委員を設置する予定になっておりますので、そのように願いたいと思います。

議長（石井潔君）それでは、日程第二十議案第六十四号を上程いたします。上程に先立ちまして、条例改正でございますので、朗読としておりますと、非常に時間を要します。で、朗読を省略いたしまして、改正の要点だけを説明申し上げます。ことにいたしたいと思っておりますが、さういまして、御

異議ございませんでしようか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君) 御異議なければさよういたします。

そゝでは議案第六十四号

(議案第六十四号につきまゝで概略

御説明申し上げます。こゝ給与条例は現在までは教育公務員特例法によりまゝでこゝ条例ができるまでは、県庁条例を準用しておったわけでございしますが、今回いかなる給与も条例に拠らなければ支給できないという自治法の改正によりまゝでこゝ条例を制定したわけでございします。こゝ条例の

職員と申しますのは、館山市

の全日制の高等学校の職員と幼稚園の職員でござい
ます。

そゝで給料表が三つございまして、別表第一の小学校、

中学校等、教育職員級別給料表というものは、小中学校の先生方の給料表でございますが、幼稚園の先生にこの給料表を適用しているわけでございます。

それから別表第二、二、高等学校教育職員級別給料表は、高等学校の職員に対する給料表でございます。それから事務職員等、級別給料表、これは市の職員と同じ給料表でございます。そして、事務職員はこの給料表をもつてさせているわけでございます。

それから、初任給、昇給、昇格等、基準は現在通り、小中学校の教職員と同じように規定通り行っているわけでございます。

第十条の給料表を異にする場合の給料ということが規定してございますが、これは職員が別な給料表を受ける職員に変わった場合のことを規定しているわけでございます。

それから第十二条では昇格の基準を規定してございます。

これもやはり小中学校の教職員と同じような昇格基準によって行っているわけでございます。それから十四条の昇格でございますが、これもその給料額によりまして、六ヵ月、九ヵ月、十二ヵ月等規定してございます。これも現在は規定通り行っておるわけであります。幼稚園の職員に對しましては、一部この規定通り行わない場合もございます。

第十八条の宿直、日直、手当でございますが、これは市の職員と同じように同じ額を支給しております。十九条では、

高等学校の金日制、職員が夜間の勤務をする場合の手当を支給できるように規定いたしました。第三十一条の休

職者の給与でございますが、これは市の職員の場合と違

いまして、教育公務員におきましては教育公務員特別法第十四条の規定によって、これは胸部疾患の場合で

でございます。三年の間、給料が支給されるということになつております。法令で定まつておりますので、そのように規定いたしたわけでございます。休職の件におきましては、そのほかはそのつぎの条例の分限の方におきまして規定してございます。以上簡単でございしますが、現在、給与をそのままこの条例に適用するようにこの条例では制定してございますので、よろしく御審議をお願いいたします。

() 幼稚園と小学校の校長と兼任しているものがありますが、兼職に対する条文というものは、みえないんですが、兼職するものに対する手当とか、そういうものは、なんで受けることになりますか、兼職に対するものと規定してないようにみえるんですが、

・教育長(工藤和平君) 幼稚園長はいま五人いますか、二人は

全部小学校長が兼任しているわけです。これに対するところの支給の基準というものは、特殊勤務手当の第三項のところにあります。教育公務員特例法第三十一条の規定により、兼ねて他の教育職員の仕事に従事する場合、これはこの規定によりまして、ほかを兼職した場合にこれに対して手当を支給することになっています。現在とところは、この箇条によって幼稚園の園長に対する手当を支給しています。

()

()

() 二は教育公務員特例法によつて支給してゐるんだと、この条例においては必要がないんだと。そういうふうな解釈でいいんですか。

小学校

— そうですね —

は、盛らなくてもいいんだと、ここをみますと、二十一条の規定によつて兼ねて他の教育職員に従事する場合にという、十九条にやつてゐるは例えは幼稚園、館山の幼稚園とか高等学校の職員であつて、そのものを兼ねる場合と条文上から、そうとゆるんですが、逆によその職員が、こつちを兼務する場合というふうな条項について見当たらないんで、そういう質問をたつたわけなんです。

・教育長(工藤和平君)教育公務員特例法第二十一条により

まゝで兼職および他 — 禁止されてゐるんでござ

いますけれども、委員会で任命権者の許可があれば

他に兼職もできるといふことになっておりまして、今のところ、幼稚園長は全部兼職ということになっておるやうでございまして、こゝを適用して第二十一条の規定により、兼ねて他々教育職員、本務は小学校長でございしますけれども、幼稚園長を兼任する。この場合、まだ、ほかにあるのは、現在、館山高校の定時制の職員うなかに、二高の先生をたのむ、こゝも、二高の方は任命権者が果でございしますやうで、果々教育委員会の方が任命権者である関係上、向ここの許可を受けて、こちらで時間講師としてやっているわけで、両方とも適用さるわけです。

() この条例でみますと、今まで果々高等学校条例に準じてやっておったのを、今回、地方自治法の改正に基いて、

実際は

今までやっていた当時、そのものを条例化したと、こういうふ

うな御説明でいたね。そうすると結局手当とか、なんとかは、給与の面については、県立高等学校と同等のもうたんですね。

（ ）そうでございます。それは格付けというものが規則で決まっております。それによってやっております。

（ ）さつき説明がなかに
市の職員なみとこういうふうにありますけれども、この点は、県の高等学校の職員と差はどんなものでしょうか。

（ ）やはり、県立職員と同じように支給しております。以前は、超過勤務手当で正規の——手当を支給しておったんですが、その額が高くなりますので、学校当局と協議いたしまして、市の職員なみに直したんです。それは——
成規のものではありません。

三番

(それはわかりませんが、現実の問題として、

相当な差があると思うんです。

(差はございません。

十一番(伊勢仙之助君)

問題で

すが、十九条でちよつと

—— そういうものに

手当を出す場合、二十一条の場合は、例えば、市や高等学校
校の先生とか、そういうものが、その職員、逆によその職員
と兼任した場合に手当を出すというふうな場合のことも
条文に出てくるんじゃないかと一応考えるんですが、その初
見解を改めてお尋ねしたいと思いますが、別にこれで
いいんだといわねえと、——かしなんによって支給してあるんだと
いわねえ場合に十九条だと言わねえでも、一応十九条の文面
だけでは、——
よその高等学校の先生が

兼務して入ってきた場合の職員に対する

というものは支給されていはいないというふうにみられるんですが、条例の見解の問題ですが、そういう心配はありませんか。一応この条例も果やその他のものを参考にしておつくりになつたんだと解しますが、たまたま、館山市のような特例がありますもんで、後日、この点について改正しなけければならぬと思います。少し研究していただきたいと思ひます。別に支給上には、予算上で組んでありますので、どうこうないんですが、かならず、条例通にすべてをゆゑといつても、現在条例そのものがいろんな条例において、実施されていはいないという項目が非常に多いんで、この一項だけをとつてとちかくするのもなんですが、一応もういつべんこの点を研究していただいて、私、質問を打ち切つてもいいと思ひます。

() 十一 番議員さんのお説ごもつともでございませう。この点につきましては、もう少し研究して改め

改正するようであらう。そのようにいたしたいと思います。

議長（石井潔君）他に御質疑ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議ないものと認めます。よって本案は原案通り決定いたしました。

議長（石井潔君）続いて日程第三十二、議案第六十五号を上程いたします。朗読を省略いたします。て改正要点だけを説明いたしますが、御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。て、さよういたします。

（「この学校職員の分限条例も新しく制定いたしたものでございまして、今までは市の職員と同じようにこの分限を適用しておったわけでございますが、学校職員は、やはり別に条例を制定することがよいということでは

この規定にわけてございますが、違ふところは休職関係
 でございます。やはり、この条例の適用は、高等学校の
 職員と幼稚園の職員でございます。市の職員と違ふと
 ころは、第三条の休職の事由というところに、学校職員が教
 員養成を目的として学校に入学する場合においては、こ
 を休職とすることができるといふ条項、これが普通市の
 職員と違ふところでございます。第八条に、第六条に規
 定する休職期間中であっても、その事由が消滅したと
 認めらるるときは、教育委員会は速やかに復職を命じな
 ければならない。第二項に、第六条に規定する休職期間
 の満了した学校職員について、復職すべき職の欠員が
 ない場合には、復職を命ぜらるまで、間、引き続き、
 休職とすることができるといふ間、給与はなお従前の
 例による。ということとは、休職の期間が満了してまい

ますと、当然めさせなければならぬでございしますが、二かには休職期間をすぎてもそのまま復職を命ぜらるるまで休職できるという規定を設けたわけでございしますが、こゝは市員職員と異なりまして、教育公務員の場合には果し職員に準じてこのように定めなければならぬでございします。市員職員分限条例と違ふところは以上二点でございします。

議長（石井潔君）

御異議ございせんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）

御異議ないものと認めまして本案を決定いたします。

議長（石井潔君）

続いて日程第二十二議案第六十五号を上

程いたします。本案につきまゝでは朗読を省略しないで朗読させようか。朗読省略いたしてよろしゅうございしますか。

（省略したいで下さいと呼ぶ者あり）

（書記朗読）

・終務課長（完戸貴君）議案第六十六号について御説明申し上げます。本案は自治法百三十一條、四の第三項により市が付屬機關として連絡委員長を置くというが目的でございます。従来は区長もしくは町内会長、連絡員等に対しまして、手当もしくは事務協力費として支給しておたゞてございますが、こゝは予算措置だけで条例がございまして、今回条例に拠らなければ出せないということになりまして、この条例を設けようとするものでございます。第一條は連絡委員の委嘱でございますが、現在区長や自治会長等、いわゆる市が行政下部組織をつくる場合には法令に命令がございまして、市長の方から区長をつくるというふうな強制的な指示ができない

うでございまして、あくまでも自主的に行政事務の協力を
申し出た場合に、その区長もしくは町内会長等に委嘱をいた
い、そういうふうに考えておるうでございまして、でございまして、
その選任の方法あるいは運営方法等につきましても、はすべて
地元の自主的な方法にゆだねたいという考えてございまして、

第六条は事務の内容についてございしますが、これは現在市
内にございます掲示板が用をなさなくなりまして、主と
して伝達業務は連絡委員の手を経て各戸にやり得る
ほかにはないうでございまして、この事務の内容をみるとこ
に規定いたしたうでございまして、

第八条は事務費についてございしますが、これは区域の
広狭あるいは人口、世帯数を勘案の上、年額一千円か
ら三万円以内で市長が別に規則を決めまして、事務費
を決定したい、そういうふうに考えておるうでございまして、

現在、考え直したいしましては、一世帯当り六十円、それから人口につきまゝでは人口団体別によりまして規則で決めたい。こういうふうを考えてゐるでございします。こゝ年額一千万から三千万まで非常に差がございします。が、これは小さい区域になりますと、十四世帯くらい大きい地域になりますと三百十五世帯というふうな非常に広狭の差がございします。で、こゝで

をいたしたいと

考えるでございします。付則、第二でございしますが、これは現在暫定的な措置といたしまして、市から各区長や町内会、内部に対して行政連絡委員が置いてあるか、でございしますが、こゝうも、さう区に区長が、あるいは町内会が、さういうものができまゝの場合には順次、その方へ移行して参りたいと、一か、二か、三か、で、さういふ間は、当然現在も、さういふ行きたいというので、こゝ付則

の二を設けたらでございす。

・二十二番

（第二条の末尾の方に当該自治会長等

をとりありますが、

というは、どういうもの

を

自治会長、町内会長、部落会長、

・総務課長（完戸貴君）（こやうを自治会長、町内会長、部落会

長あるいは区長、それに類似する名稱をここでは自治^会長

等と申しましたので、御質問のような内容を含むもので

ございす。

・二十二番

（そうしますと、こんどこのめによりますと、

今申し上げました自治会長および町内会長、部落会長で

なければ委員にはなれない、こういうことになりますね。

・総務課長（完戸貴君）（大体この連絡業務とそれから市長が

必要と認めた調査、その他事項等についても願いをする

関係がございますので、大体従来より区長とかあるいは自治会長とかそういったようなもの

こういうふうに考えております。

(第二条より委員はその区域内の金世帯の同意を得て結成された組織とありますが、その金世帯をもつて結成されたということをはなんによって証明なさるか。

・総務課長(完戸責君)これにはそうございますが、実際にはその区域内の金世帯のうちが入ると限らない場合もあります。なかには一部のものがこの組織に入っていない場合もあるでございます。大体区域内から選ばれた区長であるとか、町内会長であるとか、要するに申し出があった場合には大体その金世帯の同意を得て選ばれたものと認定いたしたいと考えております。

() 認定を誤るとんでもないことができるんじゃないかと思うんです。それは例えば一軒か二軒という軽微な問題うときはいいんですが、十戸あるいは二十戸という単位で入らないというのに、こゝ世帯まで、
ゑるということはどうかと思われる。民主主義の精神に及してくるんじゃないかと思われるんですが、その点の御解釈はいかがですか。

。 総務課長(完戸貴君) (こゝもつともでございます)。運営に当りましてはそういったような点につきまゝて十分調査いたしまして、果たして総音にであるかどうかというような関係につきまゝても慎重に検討を加えた上で処置いたしたいと考へております。

() 現に船形にあるんですが、現在連絡委員をやっている人と、それから町内会長なり町内会へそのなに

を移転する場合、なかなかむずかしい問題になるんじゃないかと考えられますが、あまりにそれを安易な気持ちでやつたんではどうかと考えておりますが、その点に対する御見解を御発表願いたいと思います。

。総務課長（完戸貴君）この件に関しまして、市当局におきましては非常なる関心をもっておるわけでございまして、それで従来より連絡委員がおります地域に新しく区長たり、町内会長たりがございした場合に従来より連絡委員をそのままポツンとやめさせてしまひましては、非常にその人に気の毒でございしますので、もしできるならば、従来より連絡委員をそのまま、市より連絡委員より下部職員と申しますか、とにかく、その人で使ってもらいたいというふうなことを願ひしまして、その解決がつかまで、実際に場合に、待ちたいという考えでございします。現在でも、大体その

方針でやっております。こんどもその関係につきまゝでは十分気をつけたいと考えております。

・二十八番（鳴貫社作君）現にそういうことがあったという事実も知っておりますし、またある区では前市会議員の奥さんが連絡委員になつてゐるわけで、そういうふうな関係でうまくいつてくぬぬはいいけれども、うまく行かないというところ、条例をつくつた精神と少し違つたもうが、出てきは、ないかと思つてお尋ねするわけですが、関心をもつてゐるといひまゝでも結局ほかり人を――

なに―ないやうにひとつ市のことは市で治めるといふ立場で行つてもらいたいと思つてゐます。それをとくに望んでおります。

（ ）（この連絡委員設置条例ですが、誠に結構だと思ひますが、この条例の内容をみますると、主として組織の主体といひますが、対象の主体といひますが、旧町

町会あるいは区、部落というものが対象に解釈される
すが、こういった場合にどうようにお考えになりますか。
この点をお伺いしたいと思います。例えて申し上げます
と、市町や中心地におきますところや六軒町なら、六軒町
を例にとつて申し上げますと、六軒町に七町内からあります
その町内会や町内に大きなのは、館山銀座振興会というひとつ
や大きな会がある。あるいは、一二三会というひとつや金住民
をもつていたところや組織があります。あるいは長須賀
や共 会とかそういったものがあると思いますが、こういったも
のに対してただ単に町内会や昔やあえていうならば、戦争の
遺物である町内会を單位に考えないで、もう一た新たに
生まれたところやひとつや組織というものを中心に考えて
やっていたきたいところというふうに考えるんであります。が、
当局として、そういったひとつや団体でぜひともそういうも

のをやってもういたいという希望があった場合にどうようにそれを
行かれますか。どうか。

・総務課長（完戸貴君）二ふはあくまでもその地域の民主的な
意向によりまゝてできまゝに町内会なりに委嘱をしたい。
こういうふうを考えておるうてございします。こういう関係で
こちらから無理に結成しろということには参らないのでござい
します。でございします。どうしてもつくり得ない状況にあ
るといふような地域にありまゝてはいかんともし難い。そして
その運営はあくまでも民主的にやつてもらいたいという考え
でございします。

・三番（御答弁）うピントが外れてるんですが、私の
聞いたのはあくまでも町内会とかなにか。そういつたひとつの
型にとらわれた地域でなく、仮に六軒町の通稱キネマ通りと
申しますが、あそこに一二三会という会がある。あそこより金

般り住民をもつて組織したところの団体であります。

こゝについてこゝになんかひとつそういった連絡の事務をやって
 もうおうということもこの間ちょっと申し上げたんですが、い
 ろんな関係でできないというふうなことを聞いたんですが、
 この条例が出たので、ちやうどいい機会なものですから、聞き
 たいんですが、もちろん、町内会うできているところもある
 し、できないところもあります。できないところを無理にこし
 らえるということとは、そういう必要はないと思いますが、そう
 だ、二、三、四と四つ町内会でまかかっております。その
 住民でこしらえたひとつの団体が、こゝうした対象として認
 めて扱ってもらえるかどうかということを。

・総務課長（完戸貴君）こゝは昔町内会、区長とはまったく
 別の考えでございます。ただいまよりうにある一定の
 世帯が集まりまして町内会を持つというふうな場合には、

その内容を検討しまして、場合によればそこへ一応連絡委員を置いてもいいんじゃないかと考えます。

・二十番(鈴木市蔵君) ちっと伺います。が、さつき、答弁を聞いてみますと、こんどできた町内会と現在ある連絡委員とうまをさつを防ぐために、なんか方法をして行きたいというような説明を聞いたんですが、ひとつ町内会から、今まで、連絡委員が圧迫をくって、それを市がシリ馬に乗って、そうして――

退職のやめる手続き、書類まで渡して、わざわざ判まで押したというふうなことを聞いておるんですが、これは事実であるか、事実でないか、その辺を、ちっと伺います。

・総務課長(見戸貴君) そういう事実はございませぬ。あるいは本人から申しましたら、そういうふうに申しますかも知れませんが、本人と関係者、区長、あるいは市等と集まりまして相談した結果では、決して強制的に、したものでございませぬ。

せんし、あるいは圧迫して、そういうふうになつたものでもなく
両者円満にその
話は済んでおります。

二十番(鈴木市蔵君)絶対にそういうことはないというふうな御答弁
でございしますが、確かにないんですね。

総務課長(完戸貴君)こちらの方といたしましては別に圧迫を
加えた、あるいは強制的にやめろということをもいった気持はござ
いません。

二十番(鈴木市蔵君)けれどもいまあなたがおっしゃつた本人が
考へたならば、そう思ふかも知れないという答弁を聞くと
事實あつたと思ふんだが、

総務課長(完戸貴君)本人が冷静に市役所ですつた態度を
考へてくはるならば、市役所がいかに本人のために努力して
くはたかということを十分理解してくはると思ひます。

二十番(鈴木市蔵君)本人のためにそういうふうな

同時に書類を出してその書類を市がこしらえてやったという
その見解をちよつと一言御答弁願います。

。総務課長(完戸貴君)こゝは本人がその関係の席へ参りま
て確かに私は従来より連結委員をやめますというふうと同
意をいたしましたので、それでは一応事務処理の関係から
判を押してもらいたい。そして区の方からは改めてたむとい
うことでありましたが、本人のところへ参りましたところ、本人
がこゝは、連絡委員連合会というものがあります。その会
長の方を通してはんこを押したもつちを出したとこういうふうに申
いておりまして、市の方へは参っておりません。

。二十(番) (この条例には賛成いたします。だが、第
一条う二に委員の担任区域は別に市長が定めるとあり
ますがこゝについては大体いふまででう)

・総務課長(完戸貴君)原則といたしましては、その委員の担任区域は行政区による方が便利ではないかというふうに考えております。それから、これは確かに強制はできませんが、できた場合その事務的関係等につきまゝて助言なり相談を持ちかけられた場合はこちらから積極的に御協力をいたしたいというふうに考えております。

・十一番(伊勢仙之助君)行政区の数はどの程度ありますか――

町内会長が現在連絡

委員を兼務しているようなところがどうかありますか。

また、連絡委員だけでやっている部落はどの程度ありますか。計数的に数字がわかりまーたうひとつ教えていただきたいと思ひます。

(「休憩願ひます」と呼ぶ者あり)

・議長(石井潔君)――しばらく休憩いたします。

議長（石井潔君）休憩前に引き続いて会議を開きます。

総務課長（完戸貴君）十一番議員の御質問にお答えいたします。
現在、行政区の数は百四十五ございます。それから町内会や
区長等で市に對し、行政事務の協力を申し込んで
おる数は十でございます。それから、区とあるいは町内
会とか、そういったような組織をもっておりまして、連絡委員を
やっておるものが八十ございます。それから、單に連絡委員だ
けをやっておるものが五十五人ございます。

二十八番（嶋貫壮作君）市でおつくりになろうという趣旨もよく
わかりますが、ただ、實際の問題に当たっては、市で考えている
こと――
我々は多大の疑問を持

つもので申し上げますが、例えて申し上げますと、ある町内会
に從來より連絡委員がいる。そこで、区ができて町内会長が

できた。町内会長の方から市へ申し込むと市では板ばさみになるわけで、一ようがなくて、この業務を担当している人を使ってもらうように――

そうすると、船形あたりは三百戸ぐらいの単位があるところが、二、三あるんで、こゝないところもそうですが、そつ下に班長というものがあります。

十戸、十二、三戸、二十戸ぐらいもって班長というのがある。その人々ところへ――

実際の業務

を担当するわけで――

手当というも

うは班長さんまで行かないんで、実際の業務を担当している班長さんまで行かないで――

船形あたりでは非常にそつで苦勞している面があるものであります。でありますから、よほど慎重なお考えでやっていただ

きませんとかえって結果においては悪い場合ができるんじゃないかというようなことが縣に念ひさるわけであります。

その点に対するお考えをひとつ市長さんからお願いします。
・市長(田村利男君) 鳴貴議員の御質問にお答えします。昔からよく名主どんう名義になっておって名主どんう個人の所有に打っている例がたくさんあることを聞聞いております。

それが、やはり、今う町内会が鳴貴さんうおっやったような心配がそういった結果、何代前の事項が現われているという心配だと思ひます。誠にこともなことでございます。で、一カー館山

市う事務の協力を願うということにつきましても、やはり、連絡委員とか、町内会とかいうことにお願ひしなければ、わずかの人員をもつて、とてもまかない切れませんが、その初う事情をよく考慮いたしまして、間違ひの起らないようにやうて行きたいと思ひます。よろしくお願ひします。

。二十八番（嶋貫杜作君）もうひとつ聞きたいのは、實際の業務を担当する人に手当が行くように御配慮が願いたいと思つて、うんですが、連絡委員というものを余計たのんで

—— 二ついうなにかあるかも知れませんが、その点等にもひとつ御配慮願いたい。町内会長を連絡委員とすることを——

にまで及ぼしてもらえればまったくいいと思つてですが、

。市長（田村利男君）その班長にまで及ぼすということは、おそらく希望ではありまじやうが、班長さんに何月何十銭、やるということ、おそろく不可能だと思つて、あるいは班長会議ということでお菓子やひとつも出すというやうな形でなるべく市と一まゝでは、民主的に選ばれた連絡委員なり、選ばれた土地の代表にお渡しして、あとは土地の人たち、良識に待つというふうになつて、いる次第でございます。

二十八番(鳴貫杜作君)　それならば納税組合あたりでもってすべて
こゝうのことを奨励してもらつた方が非常にいいと思ふんですが
また、納税組合をやるについてはいろいろな点から不便な点
もありましようが、至極市のためになるんじゃないかと、こゝ
思うわけでありますが、ただ連絡委員とひとり限らないで
もう少し活用する方法を発見して下すつた方がいいと思ふんであり
ます。

・市長(田村利男君)　なお、柔直な点もございまいょうが、こんご
十分研究いたしましてやりたいと思ひます。

・二番(　)　私はこの連絡委員設置条例には賛成
するものでございますが、ことにひとつ御考慮をいただき
たいのは第八条の事務費を経費として支給する場合
区域の広狭、人口、世帯数等を勘案の上とございしますが、
御承知のとおり、山間部や農家の方では、区域が非

常に広いのでございますが、世帯数が市街地と比較すると少なくて従つて人口も少ないのでございます。

これを九重の私り部落と比較すると私り部落では実は五十戸かないんでございますが、連結するにもどんなに急いでも半日かかるわけ、非常に転々としておりますので、そういうところをくにただ人口、世帯、そういうところにはかり依存しないで広狭というところにとくに御配慮願つて先ほど一世帯六十戸という割り振りをとおし、いま一たびただ一世帯六十戸という割り振りをとおすまい、たがただ一世帯六十戸とをいわずにとくに広狭というところを御考慮いただきたい、かように思ひます。

議長(石井潔君)他に御質疑ございませんか。

七番()

私もこの条例には賛成しますが、この事務

の第六条の件でございすが、私ももう方にしますれば

結構でありますが、ほ

かに税金を全部取り扱っておりましてことに悪いやつは――

大てい区長が税金をたて替えて完納して

おるわけなんですすが、そういった――

この仕事を――

喜んで結構だと税金の方は――

ということに

なるが、よく研究していただきたい。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

チ一番（伊勢仙之助君）先ほど行政区の総数と町内会長がやっておるものと、連絡委員がやっておるもの、いろいろ計数が出てきたんですが、これからみると、この条例の運営に当たっては非常に慎重にやってもうかねないといふ問題は先ほど嶋貫さんから出ていますが、ごもつともだろうと思います。この付則条項について委員が委嘱されるまで当分の間、市の伝達業務を取り扱うものについては

第二条の規定にかかわらず、こゝらのもうの申レ出により
委員とみなして、暫定的に市長が委嘱する。

この問題があるんですが、おそらく現在五十五という連絡
員があるんですが、この連絡員のなかにやめてもいいと氣持
よくやめようという人たちがどの程度おりますか。それによ
りまたいろいろこじれてくると思いますが、私たちが一番おそ
ることは戦争中の町内会で百三十八条の付則の一項による
付属機関だということのような見解がこの条例ではみられて
おるんですが、そのため伝達事項のほかには市長において
必要と認める調査、その他事項という大きな含みがありま
して本當り市の執行部の付属機関であるという建前
で民主的な

懸念が今後運営う

いかんによつては心配がかなりあるんでありますが、この条
例執行に当たつては部落とか、町内会というものを市の

行政の付屬機關であるからというそう考え方から、あつてもあつてもあつてという町内会が背負ひ切れないようなあつてあつてから伝達調査というやうなことで戦時中は非常に困つたわけですよ。そういうことに連絡委員をやめさせる場合も無理がないように現在やつておる連絡委員という人の氣持も十分尊重してまゐつて起らないやうにひとつやつていただきたいと思います。かげから強制的につくつと強い圧力をかける点については私は反対いたしますが、この条例そのものが運営いかんによつてこの条項が生きるわけですから、そういう点を十分考慮していただきたいと思います。当分間というのは時期的にはどういふうにお考へになつておりますか、その点つけ加えて質問しておきたいと思ひます。

・総務課長(完戸貴君) 現在連絡委員をやめたいと希望して

おるものはまだこちらにございませぬ。そやから、この当分の間、
 ございませぬが、こちらの考えといたしましては、町内会等で連
 絡事務に協力したいと申し出てくるまで、間ですから、強制
 的にこっちからめさせるわけには参らない。そういうふうに
 考えております。

十一番(伊勢仙之助君)そうしますと町内会から申し出があつた場合には本人の意思いかんにかかわらずお前は町内会から推選があつたから必要がないんだ、やめろとこういうことになるんですね。

○終務課長(完戸責君)　この場合には――
／＼ございます

が、自分はこの機会に連絡委員をやめたいという場合も
ごぶいますし、もし依然としてやっていたいという向きにあ
りまゝではよく、その区う当事者と相談をいたしまゝで、
そのものをそこでやめさせることなく、その区う職員として使

ってもらうと、この点だけは、こんども十分気をつけてもらいたいと考えております。

十一番（伊勢仙之助君）　そうなりますと、三十八条の四の三項が問題になってくるわけです。これによりまして、一応付属機関というものが問題になってくるわけです。三十八条の四の三というのは、普通地方公共団体が法律または条例の定めるところにより、執行機関の付属機関として――

――審査会、審議会、調査会、その他、調定、審査、諮問、または調査のため、機関を置くことができる。この条項を適用して、これをとおつくりになったと思うんですが、付属機関という建前から、そういう心配が出てくるんですが、実際に運営に当たっては、付属機関ではないというような考え方で、当ると、こういう見解に立ってよろしうございますか。運営上について

・総務課長（完戸貴君）その見解でよろしゅうございます。

・議長（石井潔君）他に御質問ございませんか。決定いたします。ことに御異議ございせんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

・議長（石井潔君）御異議ないものと認めます。よって本案は原案通り決定いたします。

・議長（石井潔君）続いて日程第二十三議案第六十七号を上程いたします。こゝは朗読いたさせまはうか。それとも朗読を省略いたして改正要点だけ申し上げるようになしますか。いかようにいたしまはうか。

・二十二番（ ）こゝはせむ朗読していただきたいと思ひます。糸天の方でミスプリントがあるんじゃないかと。そういう点も合わせて。

（書記朗読）

・総務課長(完戸貴君)改正の自治法より二百三条より二項におきまして勤務以外の非常勤の特別職員に對しましては報酬は日割支給を原則としておるわけでございませうが条例によりまして月額支給を認めらるゝということになつたわけでございませう。千葉県より市長会におきましては九月一日に船橋市で會議を開いたわけでございませうが、この際もこの問題につきまして真剣に検討を加えたわけでございませうが、この改正の趣旨はいろいろあるが、かならずしも日額制にとらわれないでその目的に添うようにすればよいではないか、また、日額支給にいたした場合には相当――

多くなるんではないか、そうして各種の現行の支給額を日額に直した場合にはあまり少額となつて現在より経済觀念からみて非常に適當とは思われないという結論に達しまつたので、各委員会ごとに各市の諸給与について最低、最高、線

打ち出しまして、そして最低に現在達してないものは、
 額として各市はこのワケ内で適当な額
 を決定するというところに意見が一致したところでございます。
 当市はこの意見に基きまして慎重に検討いたしまして
 決定いたしましたものが第二条の別表でございまして、
 この第三条でございしますが、これは月額支給の場合、
 第四条は年額支給の場合に起る重複支給を避けるための
 規定でございします。

それから第七条でございしますが、これは自治法が二百三条の
 第四号に基くものでございします。付則の三につきましては新旧
 の教育委員会委員に対する支給方法について定めたと
 りでございします。

二十八番(嶋貫杜作君)非常勤というを、わいわい市会議員も入
 るわけだろうと思ひますが、手取り早く市会議員の手当

そういうものに対してどうにか、それを街説明願いたい。

・市長（田村利男君）市会議員の報酬といひますか、手当といひますか。従前は市會議員は八千五百円でありまして、その後には費用弁償としまして一千五百円、各市なみに支給してありましたが、こんど新しく条例改正によつて条例で決めなければいけないといううができませんので、合計した数字を一万円合せてたわけでございます。こゝ一万円につきまして我々ロクラス市と申しますか佐原松戸野田茂原木更津館山を入れて六市か七市の市長がとくに集まりまして各市の状況を持ち寄りましてたところ、一万一千円のところが一カ所、一万五百円のところが一カ所、一万円のところが一カ所くらいだったように記憶しております。

（二十一番）

議員は從來と同じ――

市長(田村利男君)そうです。

(福岡保徳君) ~~福岡保徳~~ 地方自治法が二百三条より四項は考えようによつては、期末手当をなくしても差支えないように思えるし、もし決めれば、その期末手当の額と支給方法と条例に入らなければいけないと、それをここへ入れてあるんですけれど、現在、館山市は報酬はともかくとして、期末手当の件については、もう少し考慮した方がいいんじゃないかと、かように思っています。

市長(田村利男君)その点を市長会においてとくに研究したうであります。Aクラスと申します。千葉、市川、船橋、銚子の四市におきましては、全部出しておりますが、その率も高くなっております。市川、船橋あたりは、二ヵ月分くらい出しておるわけですが、Bクラスにおきましては、六つうち三つ出しております。

十一番(伊勢仙之助君) だいたい福岡議員から出まーた期末手当
であります。が、現在、館山市。 ———— そういふようなものを

考え

議員感情とーてもあるいは期末手当

条例をつくるというこゝに於ては相当

——— と思ひます。

さういふ意味から期末手当、~~■~~条項については、市側が議会、
メンツをたてようというふうなお気持ちから出ーになつたと思ひ
います。が、一応この条項は十分考へて

いふふうには私は考へるゝであります。監査委員の報酬を

——— という点について、なにか特別の根拠があります。

か。その点をお伺ひたいと思ひます。 ———— 実際監査委員

の仕事、内容、その重要性、さういふものからいつて、委員の

中でもとくに一番多く活動をしてゐるにもかかわらず、相当

引下げられてゐるという点で引き下げたという根拠につ

いてどうしてさういふふうな形を打ち出ーたかという点を

御説明願いたいと思います。

市長（田村利男君）Ｂクラス、名前は悪うございますが、Ｂクラスで協定—ま—たもう最高をとってございます。

Ａクラス、銚子市が五千五百円でございます。銚子市はとくに低いわけでございますが、Ｂクラスは野田は四千五百円、佐原は四千円、茂原が四千円、木更津が五千五百円、館山五千五百円、Ｂクラスで五千五百円をとったのは木更津と館山だけでございます。各市、市長が寄りま—てい

ろいろ相談しま—たが、監査委員はどうしても館山市の場合においてはとても各市なみに下げるわけには行かない、からという理由で他は四千円ないし四千五百円でありますが、とくに館山市は五千五百円を支給したわけでございます。

十一番（伊勢仙之助君）私はよそで下げたから下げたどそういうことでなしに、よそでも下げるなんか、理由がはつきり打ち

おさめて下げたんだろうと思いますが、下げる理由、こういう点についてさらにお伺いしたいと思います。

私たち議会からみれば、監査委員の仕事というものは非常に努
力して正確にやってもらうてゐること、市民全部が期待してい
るわけです。こういう機関がはつきりと活動さして常に市の
行政というものを観察して正しい方向にもっていつてもらつて
るということには我々非常に望むわけです。

逆に市の執行部からみれば場合に監査委員に高い報酬を
出して毎日活動さしては困るというふうな、もしそういうふう
な考えでこういうものは下げてしまえ——その点

ことをなんかよそでも引き下げたということとは理由点があろ
うと思いますが、この点についてお尋ねしたいんであります。

市長（田村利男君）そういうやまゝい点はございません。いろいろ
報酬、市会議員の報酬、各種の報酬は大体Ｂクラス

で寄り合ひまゝで話しているわけですが、今まで下げたというよりも館山市がとくにこの市よりも多すぎたというふうに解釈したいと思うわけですが、

館山市だけさくばらんには申し上げますと、監査委員にそうたくさん出せばよその市で困るというふうなこともございまして、館山市の実情としては、よその市ほどこの市よりも監査委員は尊重しなけいなく、木更津、館山市だけが五千五百円、こういう数字をとったわけですが、

二十一番(嶋貴杜作君) そうすると期末手当はいくらになるわけですか。

総務課長(完戸貴君) 六月に五割、十二月に十割。

二十八番(嶋貴杜作君) そうするといままでよりふえたわけですね。

総務課長(完戸貴君) そうでございます。

二十八番(嶋貴杜作君) かつてこういう種類の問題をめぐって

いろいろと物議をかもしているわけですが、館山市でもこういう問題で物議をかもさないという保障はつけられないと思わんです。つけた場合につきりとやり切るなにもうかあつてやるんなら私は決して差支えないと思ひますが、そのときに
なつて——説明に若しんだりするようになつうに

まで、わいわいは、えつてもういたくないんであります。

私自身としては、そう考えます。例え、ほかう市なみであるといつても、館山市う場合は、ほかう市なみにいけないところ、それが監査委員う報酬を下げた原因うひとつだろうと思ひておりますが、今までより増額するということとは、少なくとも避けなければならぬと考えるのであります。我々に与えられた問題を——我々は自分自身うことをやつてると同時に将来うことについてもやつておるんであります。だから、わいわい自身うためではないといひながら、そ

の場合に市民感情を無視してやるということもどうかと
 思います。でありますから、この問題は、委員付託に
 して、さうして、いっぺん是非を聞いてみて決めても
 遅くはないと私は思うのであります。

今、期末手当の件がありまして、期末手当について意見
を述べます。私は非常勤の特別職は期末手当をもらう
べきものではないというふうに解釈いたします。

今回、自治法を改正でもってこういうようなことが出てきたんで
あります。一カー、こは、各自治体で議会で決めて条例
をつくらざることは、できるということであつて、かならず、や
らなくちゃいけないものではない。先ほど福岡議員からも
いわれたとおり。

一カー、市長さんは、市長
会でもって決まったというんですが、そりゃあ、市長会で決
まったかどうか知りませんが、現在、私が考えてゐるのは、再
建途上にある市は、少くとも出費を減らさなくちゃいけない
例え、自治法が今、できたからといって、

出すと
いうことも私には考えられない。また、いま、鳴貴議員も

いったとおり、ほかの市でも船橋でも市川でも現在、そんな問題が出ておる。再建途上にある館山市としては、期末手当の支給ができるとあつても、一応期末手当の項については削除していただきたい。このように考えておる。

市長（田村利男君）市長といたしましては、市会議員各位がとくに赤字財政途上におきまゝて、市政のために協力して下さる熱意、満腔の意に對しまして、常々感謝してゐるところでございまして、おかげをもちましていま館山市におきまゝては先ほど監査報告がありまして、その後におきまゝて借入金に相当したものは、九百万円、借入とありますが、現在では一時借入金もこの二十五日になりますと、今月、俸給を払つても三百万円残りますので、三百万円一時借入を返すという、やや上り坂になら

参りまうたうで、こゝも皆さま、御努力、御熱意、現わしが市政に反映しまして、財政方面におきましても、このように上り坂になってきたことと感謝して、いる次第でございます。その点から申しまして、市長は信念をもちまして、この期末手当五パーセントならびに百パーセント支給というものを上程したわけでございます。

。十二番（ ）ただいま、市長さんから非常に心強いところの、財政について、説明がありまして、たが、現在一ぱは赤字財政という言葉を使われておりますが、

期末手当を支給できるということではなくてもよいという観点からしまして、私としても、市吏員としても、各市の例をあげてお話することは一応略しますが、一般市民に対しては、一ては、まだまだ――

――ということは、非常に叫ばれている今日であります。故に、この期末手当と本俸の一万

用がこんご報酬として上程されておりますが、現在まで
は八千五百円であつたと千五百円——

条例を改正しなければ支給することができないという前
提のもとに付託されたやに解釈されますが、その点につき
ましても一応前回の線を守らしまして我々としても館山
市の赤字財政を克服されて市民の欲望は完全に
なされたときにこの自治法が適用を受けて本条例を
待つことが適当ではないかと思はれるのでありまして
今までの意見を述べたので方々に賛成するものであ
ります。よって第 条の議員の期末手当に關し
てはこれを付託されますことを望むものであります。
また報酬につきましても一万円を——

市長(田村利男君)吉田議員の御質問でございますが、市長

と一まゝでは十分考えてう提出でございます。

議長（石井潔君）一ぱらく休憩いたします。

議長（石井潔君）休憩前に引き続いて会議を開きます。

二十二番（松本藤太郎君）ただいま議長、要請によりまして、議会議事協議会を開きました。その議題は、いまちやうと足ぶみをしております。議案六十七号ですが、あますところ、時間もございせんので、本六十七号議案は、いずかになろうとも、時間延長しても本日審議するということを一応決まりましたので。

議長（石井潔君）お諮りいたします。ただいま松本議員より本議案の審議のため時間を延長して本日中にこの議案だけを一めぐりをしようという御意見でございしますが、

さよういたして御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君) 御異議ないものと認めます。よって時間を延長いたします。

議長(石井潔君) ただちに休憩いたしまして協議会に切替えたいと存じます。

議長(石井潔君) 協議会から再び本会議に移します。開会いたします。

議長(石井潔君) 協議会におきまして一応各議員から打ち出さる

た意見を十分尊重してということで終務委員に本議案を

一振付託、こういう御意見がございまして、改めてお諮り

いたします。本議案を終務委員会に付託し、各議員から

述べらる御意見を十分尊重して審議してもらう。

かようなことで付託することに御異議ございませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり」

議長（石井潔君）御異議ないものと認めます。よって本議案は、
活絡務委員会に付託することに決定いたしました。

議長（石井潔君）明日は十時から会議を開きますので改めて御通
知を申し上げます。ここで通知に代える次方であります。
以上をもちまして本日の会議を閉じます。ごくろうさまで
した。

食山司請令

